

102-276

問題文

7歳女児。アトピー性皮膚炎と診断され、母親とともに処方箋を薬局に持参した。

(処方1)

ベタメタゾン吉草酸エステルクリーム 0.12% 5 g

1 回適量 1 日 2 回 朝夕 体、腕に塗布

(処方2)

白色ワセリン 25 g

1 回適量 1 日 2 回 朝夕 体、腕に塗布

(処方3)

タクロリムス軟膏 0.03% 5 g

1 回適量 1 日 2 回 朝夕 赤みが強い部位に塗布

問276

本処方箋の発行前に、医師より処方1と処方2の混合について問い合わせがあった。混合が推奨されない理由として正しいのはどれか。1つ選べ。

- 1. ベタメタゾン吉草酸エステルの分解が促進される。
- 2. 白色ワセリンと混ぜ合わせると、クリーム剤の分離や粘性の増加が生じる。
- 3. 基剤同士が反応し、褐色に変化する。
- 4. 白色ワセリンの添加により、クリーム剤中の水相へのベタメタゾン吉草酸エステルの分配量が増加する。
- 5. 白色ワセリンの添加により、吸湿性が増大する。

問277

薬剤師が患者の家族に説明する内容として適切でないのはどれか。2つ選べ。

- 1. 処方1は、ステロイドの作用の強さの5段階分類の中で最も弱い薬です。
- 2. タ方(夜)は、入浴後に塗るようにしてください。
- 3. 白色ワセリンには皮膚保護作用があります。
- 4. お薬のほかに、室内環境の整備や皮膚を清潔に保つことも重要です。
- 5. タクロリムス軟膏は、顔には使用しないでください。

解答

問276 : 2問277 : 1, 5

解説

問276

ワセリンは、プロペトという商品名の方が思い出しやすいかもしれません。

ベタメタゾン吉草酸エステルクリーム 0.12 % とは、リンデロン V クリームのことです。軟膏は、油脂性基材です。要は油と思えばOKです。

クリームは、w/o か、o/w です。（覚える必要はないけど、リンデロン V クリームは、o/w）原則として、o/w や w/o といった乳剤となっているものは混合しない方がいいです。乳化が破壊されてしまうことがあるからです。「クリーム剤の分離」という記述が符号します。

実習を思い出して、プロペトの、のべっとした感じとリンデロンクリーム を混ぜるってのは何か変だなあ。うまく混ざりそうにないなあ・・・といった感覚で選ぶのも 1 つの解き方だと思います。

以上より、問276 の正解は 2 です。

問277

選択肢 1 は、適切ではありません。

ステロイドの作用の強さの 5 段階分類の中で、リンデロン V クリームは strong です。これは、5 段階の中で 3 番めの強さです。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ～ 4 は、正しい記述です。

選択肢 5 ですが

タクロリムスは、アトピー性皮膚炎に用いられます。代表的な使用部位は、顔や首です。ピリピリとした使用感が特徴です。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 1,5 です。